

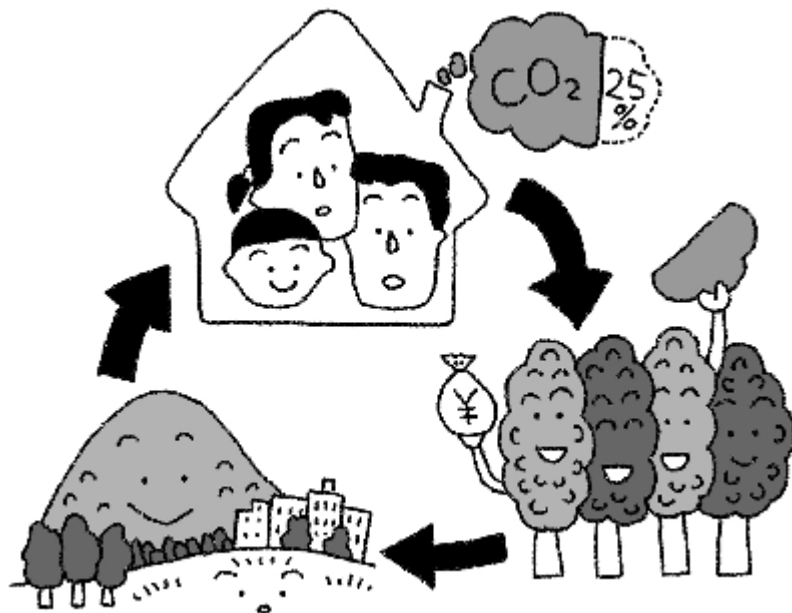
どんなアイデアをおもちですか。CO<sub>2</sub>を1990年度比25%削減し嵐山町が将来も持続するために？

カーボン(排出したCO<sub>2</sub>)オフセット(帳消しにする)方式を取り入れるのはどうですか。

嵐山町(家庭・工場・オフィス)の排出したCO<sub>2</sub>の量を計算する

緑の保全でCO<sub>2</sub>を吸収するために、その経費を支払う(例えば生ごみを燃やさないでできたお金で)

きれいな山林・街中の緑が増える(緑の保全には校庭の芝生化やグリーンカーテンも含めて)



生ごみをお金をかけて燃やすのを止めたいですね。その分山の手入れやもっと緑の保全に。

大まかな試算では、生ごみを燃やさないで堆肥にするとごみ処理費が3852万円減額します。

H20年度決算より(焼却ごみ=事業ごみ+家庭ごみ)

家庭可燃ごみの50%を生ごみとして堆肥化すると

	嵐山町	一人当たり
焼却ごみ量	4,585t	648g(1日)
運搬費	1995万円	1030円
ごみ焼却費	5709万円	2946円
負担金額(年間)	7704万円	3976円



	嵐山町	一人当たり
焼却ごみ量	3,025t	428g(1日)
運搬費	997万5千円	515円
ごみ焼却費	2854万5千円	1473円
負担金額(年間)	3852万円	1988円

(生ごみを焼却しない場合、週1回の収集で間に合うと仮定しました。)

減額できる金額はもっと少ないかもしれませんが、新たな仕組みづくりのお金が出てくるはず。生ごみを燃やさないやり方はいろいろです。生ごみを燃やさないで処理できる仕組みが必要です。



● 戸田市では、

「生ごみは宝の山・リサイクルで花いっぱい町に」として生ごみ堆肥化を推進しています。家庭で分別した生ごみを専用バケツで集め、フラワーセンター戸田にもって行きます。フラワーセンター戸田が生ごみを堆肥化し、3ヶ月に1度、花の苗12本と換えます。